

令和6年度
事業報告書

社会福祉法人 やながせ福祉会

短期入所生活介護

姫路・勝原ホーム短期入所生活介護

令和 6 年度 事業計画

目 標	ケアの統一を図り、利用者本人、家族が安心でき、居心地がよい環境を整える。
理 由	利用時に自宅と異なる環境から不安感が観られるため、環境の変化による不安が解消できるよう、生活歴や住環境に関する情報を収集し、一人ひとりに合った生活スタイルでの利用をすすめたいため。 また、利用者個々の生活スタイルを尊重していくことで、生活環境に関係なく、心身ともに健やかな暮らしを図りたいため。
具体的対応策	1. 利用者本人、家族や担当介護支援専門員から生活歴や生活様式、生活習慣、住環境などの情報を収集する。 2. 収集した情報をもとに多職種も含め、担当職員間で話し合い、情報共有と共通認識による支援をすすめていくことで、関わり方や支援など対応方法の統一を図る。 3. 話し合った内容を個々の利用者に提案し、合意形成のもと、生活支援を行う。意思疎通の難しい利用者は、家族に提案し、支援をすすめる。 4. 行っている生活支援が、安心できる暮らしの場になっているか、日々の申し送りを活用し、利用者や家族の意向も踏まえて、定期的に検証する。 5. 利用者個々の想いも尊重した四季を感じられるプログラムを用意し、実行状況も含め、利用時の様子を連絡帳や便りにて情報発信を行う。 6. 適切な接遇、支援の統一、スキルアップができるよう定期会議（月に1度）の中で、検討する。

令和6年度 事業報告

事業報告	利用者の生活歴や生活様式、生活習慣、住環境などの情報の収集は送迎時やサービス担当者会議などで家族や担当介護支援専門員から話を伺うことができた。その中で困りごとなどの相談があり、利用者や家族の意向も踏まえて、収集した情報をもとに多職種も含め、職員間で話し合い、情報共有と共通認識を図った。また、担当介護支援専門員とも感染症予防対策を講じつつ、連携を図り、利用時の様子などについて意見交換を行った。しかし、情報伝達や調整不足から共通認識に至らない場合があり、一人ひとりの状態に合った支援ができなかったこともあったため、申し送りなどで情報共有や共通認識度を把握し、改善に努めていきたい。 全体で行うレクリエーションは、より多くの方が楽しめるような活動内容を検討し、ほぼ毎日継続して行った。塗り絵や数独、ちぎり絵など個別のレクリエーションについても時間の許す範囲で、それぞれの希望に副う形で継続している。あわせて、創作活動として、できあがった作品は利用者の見やすい場所に掲示し、達成感が得られ、次の作品づくりへの意欲につながるようにも努めた。また併設特別養護老人ホームとも連携を図り、納涼大会やクリスマス会を催し、内容を広報誌にて発信した。 接遇は、日常の申し送りにて、法人内研修で学んだことが実践できているかどうか、確認し、より適切な対応になるよう、努めている。
事業運営総括	6年度は年間平均稼働率が84.7%と新型コロナウイルス感染症が2回発生し、収束まで時間がかかり、受け入れ休止期間が長かったことから5年度に比べ13.8%下回った。施設入居や入院等によるキャンセルが相次いだことも減少の要因としてあげられる。 各居宅介護支援事業所に空床状況を案内したことに加え、定期利用している利用者には延泊を勧めたことで、稼働率は一時回復の兆しがあったものの、改善には至らなかった。引き続き男女のバランスなど受け入れ人数を調整しながらも、利用者確保に向け、居宅介護支援事業所の介護支援専門員と情報を共有し、受け入れや支援方法を試行錯誤していききたい。また併設特別養護老人ホームとも連携を図り、入居申込者に長期的な利用を提案するなどの取り組みにも努めていきたい。 今後は安定した利用を図り、稼働率を維持するため、可能な範囲で個別化を図り、継続的に利用ができるよう取り組んでいきたい。

要介護度の状況 《平均要介護度 介護 2.5》

令和7年3月31日 現在

	人 数	割 合
要 支 援 1	0	0%
要 支 援 2	0	0%
要 介 護 1	5	23%
要 介 護 2	8	36%
要 介 護 3	3	14%
要 介 護 4	5	23%
要 介 護 5	1	4%
合 計	22	100%

月間利用実績（人数）

令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
要 支 援 1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
要 支 援 2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	0	10
要 介 護 1	5	6	4	4	5	9	6	6	8	4	9	5	71
要 介 護 2	8	9	8	6	9	6	10	8	7	8	6	8	93
要 介 護 3	8	9	9	7	4	5	5	7	6	4	3	3	70
要 介 護 4	4	5	5	6	7	8	10	6	7	8	7	5	78
要 介 護 5	2	2	3	3	3	3	2	2	2	1	1	1	25
合 計	29	33	31	27	29	32	34	30	31	25	27	22	350

月間利用実績（延べ人数） 《稼働率 84.7%》

令和6年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
要 支 援 1	6	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14
要 支 援 2	4	4	4	5	4	2	4	5	4	0	7	0	43
要 介 護 1	63	61	55	44	57	63	59	51	55	66	89	55	718
要 介 護 2	60	71	59	46	66	49	68	63	45	81	66	85	759
要 介 護 3	90	81	80	59	64	71	56	70	54	45	36	38	744
要 介 護 4	27	27	24	29	24	54	66	46	40	51	26	59	473
要 介 護 5	27	23	13	28	71	68	37	38	8	8	8	13	342
合 計	277	271	239	211	286	307	290	273	206	251	232	250	3,093

曜日別延べ利用実績

令和6年度

	月	火	水	木	金	土	日	合計
人 数	462	423	411	455	468	453	421	3,093
割 合	15%	14%	13%	15%	15%	14%	14%	100%

1週当り平均利用人員

令和6年度

	月	火	水	木	金	土	日	合計	1日平均
人 数	8.7	8.1	7.9	8.8	9.0	8.7	8.1	59.30	8.47
割 合	15%	14%	13%	15%	15%	14%	14%	100%	

年齢別構成状況

令和7年3月31日 現在

	65歳以下	65歳以上 70歳未満	70歳以上 75歳未満	75歳以上 80歳未満	80歳以上 85歳未満	85歳以上 90歳未満	90歳以上	合 計
男	0	0	0	0	1	2	2	5
女	0	0	0	0	2	9	6	17
全 体	0	0	0	0	3	11	8	22

行事報告

	行 事	趣味・生きがい活動	レクリエーション及び体操
4 月		壁紙作り・計算 外出ドライブ・数字パズル	連想ゲーム ビンゴゲーム
5 月	下太田花まつり	壁紙作り・ちぎり絵・漢字 トレーニング・点つなぎ	都道府県ゲーム
6 月	B B Q大会	壁紙作り・塗り絵 脳トレーニング	連想ゲーム ビンゴゲーム
7 月	七夕の飾りつけ	壁紙作り ちぎり絵・数字パズル	連想ゲーム
8 月	納涼大会	壁紙作り・ことわざクイズ ちぎり絵・パズル	連想ゲーム
9 月		壁紙作り 塗り絵・点つなぎ	連想ゲーム
10 月		壁紙作り・脳トレーニング 外出ドライブ・ちぎり絵	ボールゲーム
11 月	やながせ文化祭	壁紙作り・塗り絵 漢字トレーニング	連想ゲーム 点取りゲーム
12 月	クリスマス会	壁紙作り・脳トレーニング 塗り絵	ビンゴゲーム
1 月	正月飾りづくり	壁紙作り・脳トレーニング 折り紙	福笑いゲーム カルタ
2 月	節分豆まき	壁紙作り・数字パズル カルタ・ことわざクイズ	連想ゲーム ボールゲーム
3 月	レクリエーション大会	壁紙作り・数字パズル 飾り作り・脳トレーニング	ビンゴゲーム 連想ゲーム
定期的	お誕生会	飾り作り・塗り絵・パズル	足踏み・音楽による体操 リハビリ体操・口腔体操 連想ゲーム

苦情対応

受付日	苦情内容	解決方法
令和6年 11月6日	「パジャマの着替えについて」 担当介護支援専門員からパジャマを持参しているが、準備した時のままの状態です。帰宅してきたので、夜間に着替えた形跡がなく、本人から意思表示がない場合、着替えないのは不適切ではないかと事業所側の対応に不信感や不快を覚えたとの相談を受けたので、利用者本人は事業所の利用を気に入っていることから心情を踏まえた対応を心がけてほしいとの申し出がある。	①担当介護支援専門員に連絡し、パジャマに着替えてなかったことを報告し、家族に陳謝することを説明する。 ②自宅を訪問し、家族に不適切な対応から不快を感じさせてしまったことについて、陳謝する。 ③今後、確認用紙を作成し、パジャマへの着替えを行い、不備のないように努めていくことを説明する。 ④利用者本人や家族等が不快を感じる対応がないように想いに寄り添い、心情を察した対応を心がけ、改善に努めていくことを説明すると理解が得られた。

事故対応

事故なし

※ 職員間の内部研修、外部研修、避難訓練については、併設の特別養護老人ホームと合同で行い、参加している。